

# 長岡技術科学大学 中長期成長戦略



## はじめに

本学は「技術科学」すなわち“技学”の創出とそれを担う実践的・創造的な技術者の養成を行い、これらを通して当時としては画期的であった産官学連携を積極的に図ることを目標とし、1976年に開学しました。この間約2万人余りの卒業生・修了生を輩出しておりますが、そのほとんどが全国的高等専門学校(高専)ならびに専門高校からの進学者であるという明確な指向性を有した大学でもあります。本学に集う学生のほとんどは、中学校を卒業する時点で「技術、科学の世界で生きる」という目的意識を持ち、高専や専門高校での勉学を通して、切磋琢磨して技学の感性を体に染み込ませて進学してきます。本学は、このような技学の感性に優れた学生を大学院までシームレス(継承的)に教育することによって、長期的かつ戦略的に活躍できる技学のトップランナーを輩出しています。

このように本学は、技学の分野で世界に類を見ない我が国独自の一貫教育研究スキーム(体系)を構築しています。このスキームは、長期的視野に基づく自由度の高い教育研究システムであり、一般の大学では不可能な企業と協働した5ヶ月に及ぶ実務訓練(長期インターンシップ)を含む、先取性の高い教育プログラムの実践と世界レベルの卓越した研究成果の発信を可能にしています。これらは世界の高等教育研究機関の規範となるもので、技術立国としての我が国の産業基盤作りを支えてきました。

しかしながら、少子高齢化、グローバル化、産業構造や雇用形態の変化など開学当時の予測を超える勢いで社会が変遷しています。また、国立大学の法人化を端緒として、産学連携や実践的教育の取り組みが他大学にも浸透するなど、大学機能向上の競争激化も同時に進行しています。本学がこれらの潮流に十分に対応できる体制を整えていることは卒業生・修了生の活躍からも明らかですが、未来を先取りする人材育成の使命を果たすために、本学は開学以来持ち続ける特長をさらに発展させ、長期に悠々と活躍する人材育成と、“ものづくり”の礎となる技学の新たな時代に対応する形への深化によってさらなる成長を遂げます。

長岡技術科学大学は、新たなビジョンを掲げ未来社会においても大学の理念を実践し続けます。

## 長岡技術科学大学の概要

創立：1976年10月1日

教育組織：

工学部(学生定員：940名)

大学院工学研究科

修士課程(学生定員：808名)

博士課程(学生定員：120名)

大学院技術経営研究科

専門職学位課程(学生定員：30名)

## 目次

はじめに

本学の理念

中長期成長のための6つの戦略

1. 技学の教育研究拠点としての体制強化
  2. 技学の担い手を育成する連携教育
  3. 技学を通じた社会貢献と絆の構築
  4. 技学を核とした国際連携
  5. 技学教育研究の情報システムによる高度化
  6. 技学を発信する広報の展開
- 戦略を具現化するための総合戦略室

2011年8月

長岡技術科学大学長

新原 皓一

## 本学の理念

本学は、社会の変化を先取りする“技学”を創成し、未来社会で持続的に貢献する実践的・創造的能力と奉仕の志を備えた指導的技術者を養成する、大学院に重点を置いたグローバル社会に不可欠な大学を目指します。

### 技学とは

「現実の多様な技術対象を科学の局面からとらえ直し、それによって、技術体系をいっそう発展させる技術に関する科学」です。理学・工学はもとより経営・安全・情報・生命についての幅広い理解を踏まえ、未来のイノベーションを志向する実践的技術を創造するものです。

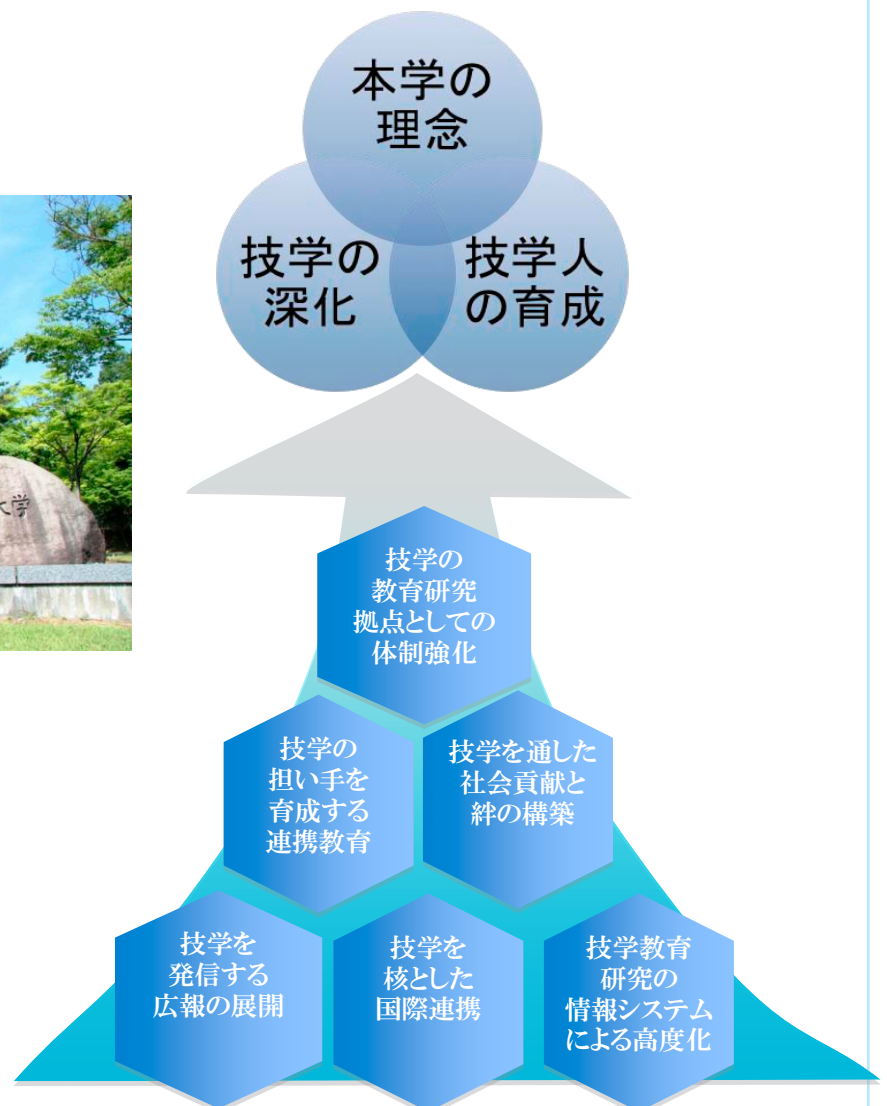
### 本学のモットー VOS



## 中長期成長のための6つの戦略

開学以来、実践的・創造的能力を備え国際的に通用する指導的技術者・研究者の育成を実現してきました。その成果は卒業生・修了生の社会における活躍とその評価の高さから実証されています。次の中長期的な成長のために、グローバル化社会に対応した技学のさらなる深化とこれを国内外に発信することによって、本学の研究成果の価値への理解を広め、技学の概念の普及を促進します。同時に、その担い手である“技学人”の育成を通して我が国の産業の技術革新と国際競争力向上に貢献することを目指します。その実現のために以下の6つの戦略を掲げます。

1. 技学の教育研究拠点としての体制強化
2. 技学の担い手を育成する連携教育
3. 技学を通じた社会貢献と絆の構築
4. 技学を核とした国際連携
5. 技学教育研究の情報システムによる高度化
6. 技学を発信する広報の展開



# 中長期成長のための6つの戦略

## 1. 技学の教育研究拠点としての体制強化

時代や社会の変化に対して先取り型の思考ができる技学の担い手を育成するために必要な教育システムおよび教育組織の改革を推進します。同時に、未来を先取りする技術や研究のシーズを見いだし育成するスキームをさらに進展させます。深化した技学を修め、分野横断型の思考を有する人材を育成し、これを長岡ブランドとして国際的にアピールしていきます。



## 3. 技学を通じた社会貢献と絆の構築

本学は、主として高専および専門高校から学生を受け入れた人材育成と、“ものづくり”の礎となる技学の深化を志向する明確なミッションを担う工学系大学です。技学の深化を進めるためには企業や地域との連携が不可欠です。そして、その技学の担い手を育て上げることで、また、技学の啓発により地域社会に貢献します。

## 2. 技学の担い手を育成する連携教育

本学は、中学卒業から“ものづくり DNA”を育んだ学生を受け入れ、大学院までの一貫教育によって技学を担う実践的で指導的技術者を育成しています。この時間的自由度の高さに基づき、個々の学生の能力を最大限に発揮させる先導的な教育手法を開発し、未来社会に不可欠な洞察力や構想力を養成します。自然や社会を理解するための基礎学問の本質を追求するとともに、多様な技術領域へ対応可能な技学の感性を涵養させ、独創的技術立国を牽引していく指導的技術者の育成を目指します。

## 5. 技学教育研究の情報システムによる高度化

本学リソースの情報システムによる見える化を促進することでその価値の向上を図るとともに、学内構成員の相互理解と外部への広報を容易にし、大学運営の迅速化とコストや労力の削減を促進するための情報システムを構築します。さらに、教育研究における産学・高専連携や国際化施策などの本学の特色を高度化するためのネットワークを構築します。大学運営の危機管理機能を高めるための情報セキュリティの強化と情報倫理教育を徹底することで、本学に関わるすべての人が安心して恩恵を容易に享受できる環境整備を推進します。

## 4. 技学を核とした国際連携

本学は、“ものづくり”の礎である技学を核として諸外国との協力・友好関係を戦略的に構築し、海外の大学・研究機関等との強固な信頼関係に基づいた双方向の教育連携・共同研究を推進することにより、世界に貢献する国際交流を目指します。

## 6. 技学を発信する広報の展開

本学のもつブランドの浸透を促進するために、本学のリソースを適切な人に、適切なタイミングで適切な手法で伝えるための受け手との相思相愛の広報を目指します。統一感の高い広報活動で本学の強みを発信し、次代を担う領域を育成するためのメリハリのある広報経営を行います。広報手法の開発と広報人材の育成を通じて本学の使命を遂行するための環境整備を行い、技学のすばらしさを世界に発信し続けます。広報の信頼性と効果を高め、大学の危機管理を強化するための先取り型の広報を行います。



# 1. 技学の教育研究拠点としての体制強化

時代や社会の変化に対して先取り型の思考ができるこれからの技学の担い手を育成するために必要な教育システムおよび教育組織の改革を推進します。同時に、未来を先取りする技術や研究のシーズを見だし育成するスキームをさらに進展させます。深化した技学を修め、分野横断型の思考を有する人材を育成し、これを長岡ブランドとして国際的にアピールしていきます。

## (1) 技学を深化する教育研究体制の構築

時代や社会の変化に対して先取り型の思考ができるこれからの技学の担い手を育成するために必要な教育システムおよび教育組織の改革を推進します。

高専および専門高校との連携の高度化を進め、より実践的で創造性の高い人材の育成スキームの構築を目指します。

- 社会状況の変化と将来を見通した教育組織の改革
- 分野横断型研究を促進する研究組織の構築
- 高専との高度な連携を推進するための体制の確立
- 多様なバックグラウンドを有する人的リソースの活用
- 技学の深化の担い手を育成するための環境整備
- 事務組織のさらなる効率化を目指す改革

## (2) 未来を先取りする技術・研究の育成

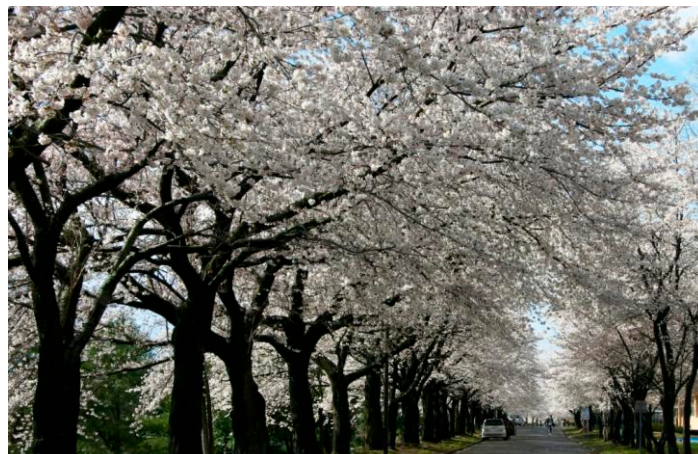
未来を先取りする技術および本学がその分野の世界的拠点となる研究のシーズを見だし育成するためのスキームを構築します。学内における研究リソースの可視化や分野横断型研究の促進による新研究分野開拓の基盤を強化します。

- 先取り技術・研究のシーズ発掘と育成のための体制構築
- 新分野開拓を促進するための教員意識改革と研究費配分方法の検討
- 分野横断型研究の促進
- 研究リソースの可視化

## (3) 長岡ブランドの確立

技学を修め、次代を担う人材に必要な経営・安全・情報・生命に関する知見を有し、最先端の研究活動を通じて分野横断型の思考を有する人材を、高専との協働による全国規模で長期的視野に立った高等教育組織体の強みを生かして育成し、これを長岡ブランドとして国際的にアピールします。

- 実践的・創造的能力と共に経営・安全・情報・生命分野への感性を持つ修士・博士の育成
- 産学官の連携による実践的教育の推進
- グローバルに活躍する人材の育成



## 2. 技学の担い手を育成する連携教育

本学は、中学卒業から“ものづくりDNA”を育んだ学生を受け入れ、大学院までの一貫教育によって技学を担う実践的で指導的技術者を育成しています。この時間的自由度の高さに基づき、個々の学生の能力を最大限に発揮させる先導的な教育手法を開発し、未来社会に不可欠な洞察力や構想力を養成します。自然や社会を理解するための基礎学問の本質を追求するとともに、多様な技術領域へ対応可能な技学の感性を涵養させ、独創的技術立国を牽引していく指導的技術者の育成を目指します。

### (1) 高専・学部・大学院の有機的な接合

高専から本学の学部そして大学院修士課程までの9年間の一貫した技術者教育の特長を活かし、社会の要請する長岡ブランドの修了生を送り出すために、これまでの各教育ステージ間の接合性を点検し、シームレスな連結を実現します。

### (2) 「できる」技術者育成のための教育プログラムの再構築

グローバル社会における持続可能性の実現、世界経済の牽引と人類福祉向上を志向する技術者として要請される能力を意識した人材育成像の明確化とそのための教育カリキュラムの再構築を図ります。

### (3) 教育形態の多様化・柔軟化

学士課程・修士課程を通して、教員対学生の対面授業に留まらず、学生間の協働学習、社会との交流活動、ICTによる教育環境を活用することで、教育形態を多様化・柔軟化し、より効果的・効率的な教育実践を図ります。

### (4) 教育プログラムの合理的マネージメントの確立

各専門教育・共通的教育全体を統括的・戦略的にマネージメントする体制を確立し、技学教育プログラムの高度化を目指します。さらに、教育プログラムのマネージメントを合理的に推進するため教育関連および入学・就職データを長期的に蓄積・活用できる体制を整備します。

### (5) 教育における社会との相互連携・補完関係の強化

本学における教育組織、教育活動にかかわるポテンシャルを生かして、一般市民や産業界、行政、あるいは初等・中等・高等教育機関に対して、教育研究人材、教育カリキュラム、教材、教育環境等を提供し、それらの教育活動に対して可能な範囲で貢献します。また、そうした活動に本学学生を参画させることで、本学の教育研究への相乗効果も狙います。



### 3. 技学を通じた社会貢献と絆の構築

本学は、主として高専および専門高校から学生を受け入れた人材育成と、“ものづくり”の礎となる技学の深化を志向する明確なミッションを持った工学系大学です。このミッションを達成するためには本学を取り巻くすべての社会環境との協働が不可欠であり、目的に応じた融合関係も必要となります。技学を深化するための連携、本学のステークホルダー（学生、OB、高専関係者等）がその必要性・有効性を明確に認識できる連携を推進し、本学のパートナーでありサポーターでもある人々との絆を深め、広く社会に貢献します。

#### (1) 本学の存在意義の認知と地位向上を目指した連携

本学の教育面および研究面の存在意義を高めるための連携を強化します。即ち、世界に先駆けて取り組んできた高専、専門高校、国内外の大学、企業との連携による人材育成システムを改善し続け、これを国内外に広めるための連携を推進します。技学の本質を追究し、真に役立つ技学を国内外に広めることを通じ、本学の研究成果の価値向上と技学の理念の普及するための連携を推進します。これら連携を通じ、本学の機能向上と地位向上を同時に達成する事を目指します。

#### (2) 本学が社会に貢献し、影響力を与えるための連携

本学の理念、存在、価値を国民や社会に発信し、社会に貢献するために多角的なチャンネルによる連携を促進します。本学のアウトプットである人材、知財、経験、システムを社会に役立てるための連携を行います。我が国の国際競争力と地位向上に貢献するために、本学の教育研究の特長を活かした連携活動を行います。

#### (3) 本学の強みを伸ばし、次代を担う領域を育むための連携

本学は高専との連携により、日本全国の地域との絆を有しています。また、技学を志向する大学として産業界や海外との深い絆を有しています。この絆が長期の実務訓練や専門職大学院などの教育システム、ものづくりの全行程を含めた研究システム等の本学の強みとなっています。本学は、この絆を深め、それに基づく強みを伸ばすための新しい協働・融合スキームを開発し続けます。さらに、社会経済情勢の変革を先取りし、次代を担う領域を育成するために、同じ志を持った先導的な機関とのアライアンスを強化します。



## 4. 技学を核とした国際連携

本学は、“ものづくり”の礎である技学を核として諸外国との協力・友好関係を戦略的に構築し、海外の大学・研究機関等との強固な信頼関係に基づいた双方向の教育連携・共同研究を推進することにより、世界に貢献する国際交流を目指します。

### (1) 戦略的国際展開の推進

先取り型の国際展開を戦略的に行うことで、技学を担う海外の優秀な人材を確保すると共に、双方向の国際交流を通じ、グローバル教育・研究の更なる高度化と持続的な相互発展を図ります。さらに、大学として先導的な国際化展開を積極的に推進することによって、技学の中心地としての本学の国際的な地位を高めるとともに、地域・企業の国際展開を支援します。

### (2) 長岡技大方式国際連携教育・支援システムの構築と実施

本学は、研究交流、学生交流、ツィニング・プログラムなどを統合的に組み立て、しかも自律的に運営される独特の国際連携教育システムを開拓し、日本の国際連携教育の展開においてリーダーシップを発揮してきました。こうした個性や豊富な経験を最大限に活用し、ユニークな国際連携教育・支援システムを構築し、国際的に開かれたキャンパスを目指します。

### (3) 機動的組織体制による国際連携の推進と広報

国際戦略チームによる企画立案を、迅速、かつ効率的に実施できる体制を構築します。また、高専・専門高校の国際化に寄与し、更にこれを通して我が国の各地域の国際化に貢献します。さらに、本学のユニークで活発な国際交流を効果的・戦略的に広く周知し、国際連携のさらなる展開と深化を目指します。

### (4) 国際戦略評価・改善システムによる国際連携の効果的な推進

国際戦略、組織、プログラム、広報活動などの意義、進捗状況、問題点等を点検・評価・改善するシステムを確立し、常に時代のニーズを先取りした国際連携を推進します。





## 5. 技学教育研究の情報システムによる高度化

本学の教育、研究、大学運営およびそれらのサポート体制の高度化、効率化のための情報システムの構築を目指します。本学リソースの見える化を促進することでその価値の向上を図るとともに、学内構成員の相互理解と外部への広報を容易にし、大学運営の迅速化とコストや労力の削減を促進します。さらに、教育研究における産学・高専連携や国際化施策などの本学の特色を高度化するためのネットワークを構築します。大学運営の危機管理機能を高めるための情報セキュリティの強化と情報倫理教育とコンプライアンスを徹底することで、本学に関わるすべての人が安心して恩恵を容易に享受できる情報システム環境整備を推進します。

### (1) これからの本学における情報化

大学における情報化は、これまでの学内情報の一元化、教育活動のICT化にとどまらず、大学の目標や方針に沿って必要となるデータの収集・分析・評価、情報の共有、有効活用を行う横断的システムの構築が必要であり、ICT教育・研究の観点から新たな価値、創造を生み出す教育研究の推進、情報発信力の強化が必要です。

これを大学経営の意思決定、大学改革に反映させることにより、将来を見据え、常に時代をリードする大学であり続けます。

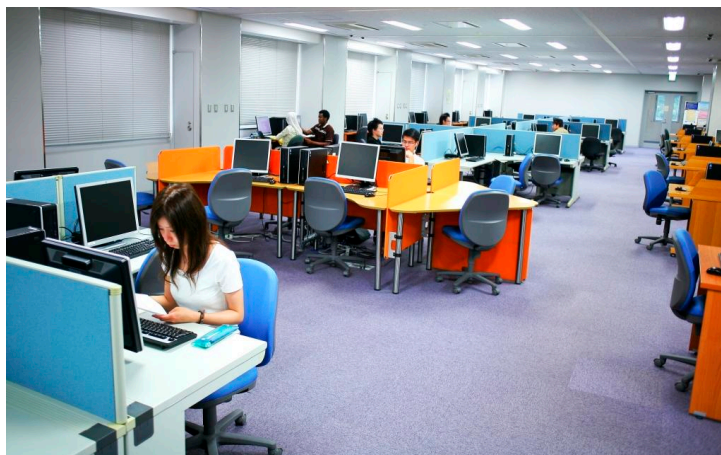
### (2) 戦略的な情報化推進

特色あるICT教育・研究の推進、相思相愛の広報を支援する情報システムの構築および技学のさらなる価値向上に資するICTを基盤とした価値創造を通じて本学の理念の具現化や人材育成、組織力の向上に貢献します。

4C即ちContinuity(継続性)、Consensus(合意)、Combination(創意工夫)、Commitment(確約)の評価に基づいたICTマネジメントプロセスを構築し、ICT資源への効率的な投資を行います。

### (3) 情報セキュリティの強化とコンプライアンスの徹底

情報化の急激な進展によって問題となっている、ICTリスクの軽減、ICTコンプライアンスを徹底するため、ICTマネジメントシステムの改善と実行を継続します。



## 6. 技学を発信する広報の展開

本学のもつブランドの浸透を促進するために、本学のリソースを適切な人に、適切なタイミングで適切な手法で伝えるための受け手との相思相愛の広報を目指します。統一感の高い広報活動で本学の強みを発信し、次代を担う領域を育成するためのメリハリのある広報経営を行います。広報手法の開発と広報人材の育成を通じて本学の使命を遂行するための環境整備を行い、技学のすばらしさを世界に発信し続けます。広報の信頼性と効果を高め、大学の危機管理を強化するための先取り型の広報を行います。

### (1) 「知って欲しい事象」を「知って欲しい人」に対して適切な方法でタイミング良く伝える

本学の持つブランドを社会に浸透するために、本学のリソースを適切な人に、適切なタイミングで適切な手法で伝えます。このために、広報戦略の司令塔を一本化し(広報室の新設、広報事業推進体制の整備)、意思決定のスピードアップを促進することで、鮮度のよい効果的なタイミングでの広報を行います。さらに、教員評価システムや、学生情報システムを機能強化することで、統一感の高い広報に必要な情報を即座に抽出することの出来る情報システムを構築します。

### (2) 本学が持続的に発展するために必要なバリューアップを支援するための広報

本学の「強み」を見える化し、「次代を担う領域」を育成するための戦略的な広報を行います。「強み」の見える化として、広報チャンネルを一元化し、統一感のある広報を展開し、技学を「ブランドイメージ」へと結びつけ、高専との連携の下で「技学; GIGAKU」を世界の標準語にします。また、本学独自で先取り型のフイージビリティスタディ(FS)、ベストプラクティス(BP)やライジングスターを本学の次世代の「強み」へと育成するために戦略的な広報を行います。

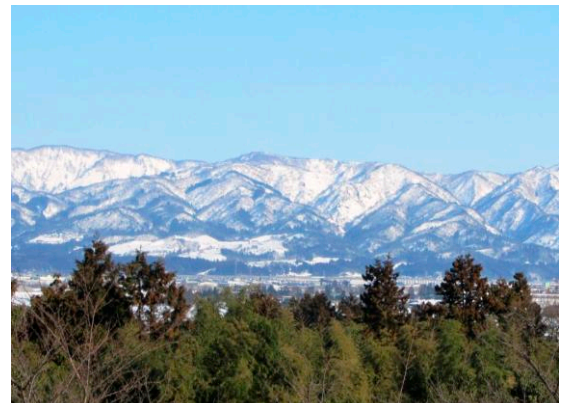
### (3) 相思相愛による広報ネットワークの増強

相思相愛の精神による広報ネットワークの強化により、高専連携、高大連携(専門高校との連携強化を含む)、国際連携、地域連携、産学連携などの推進・発展を支援します。

### (4) 広報効率を改善し続ける

大学の収入の3要素である運営費交付金、授業料収入、外部資金の増大を促進するための戦略的な広報を展開します。

- 広報対象のプライオリティを明確化し、広報に関するリソースの分配を最適化します。
- 入学者数など、様々なデータを分析し、広報の弱点を探索し、広報の費用対効果が十分に発揮されているかを検討します。
- 広報手法の開発と広報人材の育成を通じて本学の使命を遂行するための環境整備を行います。
- 広報の信頼性と効果を高め、大学の危機管理を強化するための先取り型の広報を行います。



# 戦略を具現化するための総合戦略室

本学の中長期成長を成し遂げるための6つの戦略は確実に、かつ迅速に具現化する必要があります。私たちはこのために新たな組織を構築し、すでに活動を開始しています。6つの戦略に対するPDCAサイクルを迅速に行うためには、強いリーダーシップを持つトップとそれぞれの戦略に関する専門家によって構成された戦略チームが必要です。本学では6つの戦略に対応する戦略チームを結成し、6名の理事、副学長が各チームのリーダーとなり時代の潮流に対して臨機応変に対応します。総合戦略室は学長を中心にこれら6つの戦略チームで構成され、有機的に連携します。また、具体的な案件に対しては必要に応じて各チーム内にワーキンググループを設置するとともに、横断的な課題に対してはプロジェクトチームを組織して対応します。





2011 長岡の大花火



〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町 1603-1  
平成23年8月発行 長岡技術科学大学総合戦略室  
TEL. 0258-47-9004(秘書室)

■ ホームページ

<http://www.nagaokaut.ac.jp/>

■ 携帯電話サイト

<http://daigakuic.jp/nagaokaut/>

リサイクル適性 **(A)**

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。